

第2回答申案検討小委員会 会議録

日 時：平成25年10月22日（火）

午後6時30分～9時

会 場：木更津市立中央公民館3階第2講習室

出席者 伊藤委員、榛澤委員、鈴木委員、橋本委員、地曳委員、
蘇我委員（議長）、石井委員（副議長）（7名）
事務局 石井生涯学習課長、佐々木副主幹、篠田副主幹、露寄主査

開会

進行 それでは、ただいまより第2回木更津市社会教育委員会議答申案検討小委員会を開催いたします。本日は、所用のため大岩委員と青木委員が欠席されていますので、ご報告いたします。

それでは最初に榛澤委員長から挨拶をお願いいたします。

議長挨拶 皆さんこんばんは。お疲れのところご苦労さまです。本日は第2回目の検討委員会になりますが、前回は宿題も出され皆さん大変だったのではないのでしょうか。みんな意見を出し合い、よりよい会議にしていきたいと思っておりますのでよろしく願います。

進行 続きまして、石井生涯学習課長より挨拶を申し上げます。

課長挨拶 皆さんこんばんは。第2回目の検討委員会ということで、今回から柱に沿って本格的にご意見をいただくこととなります。木更津市の子どもたちにどのように育てほしいのか？何を学んでほしいのか？子どもたちにどんな力をつけてほしいのか？そんな点についても議論していただけたらと思います。

進行 それでは早速議事に入りたいと思います。前回同様、榛澤委員長の進行で会議を進めていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

榛澤委員長 それではさっそく議事を進めたいと思います。

1「答申案の作成について」ということで、(1)前回の経過報告と資料の説明を事務局から願います。

前回の経過報告と今回の進め方について－事務局（佐々木）

資料1～6+アンケート結果の説明－事務局（篠田）

榛澤委員長 それでは、事務局の説明について何かご意見がありましたら願います。

地曳副委員長 資料4のP2、木更津市のキャンプ場の経費の中で、手数料とは何ですか？

事務局 トイレの汲み取り費用や水道開栓手数料等です。

地曳副委員長 比較されている他の自治体も同じですか？

事務局 詳しく内容まで調べていませんが、施設の管理にかかる手数料だと思います。

石井委員 今回の資料と直接関係ないのですが、先日の台風の被害等はなかったのですか？

事務局 建物等の被害はありませんでしたが、北キャンプ場の入り口の細い通路の法面が崩れてふさがっている状況です。また、樹木や竹が倒れたりしています。

地曳副委員長 確認ですが、約350万円の指定管理料の範囲は年間の業務ですよね。

事務局 そうです。キャンプ場の年間を通じた草刈等の環境整備と、開場期間中の受付や管理運営業務になります。年間通して見回り等をしており、かなりきれいにしてもらっています。

地曳副委員長 本当にいつ行ってもきれいですよね。

榛沢委員長 今年、6月に行った時には草が刈ってなかったかな。

事務局 開場期間外については、何か行事がある時に連絡をすると、それに合わせて整備を行ってくれます。

なお、県内には直営でやっている施設もたくさんあるのですが、そこには市の職員が関わっており、その人件費がかかっています。それを民間にお願いすれば職員の人件費分が安くなります。その分指定管理料が高くなりますが、民間のノウハウを持った運営をしてくれるところがメリットになります。本市のような環境整備と管理運営の業務委託の延長線にあるようなものではなく、受付や事業も含めた指定管理の方がそのメリットが生かされるのではないかと思います。

伊藤委員 県の君亀少年自然の家なんかは、そうですね。

事務局 受付や使用許可、料金の徴収、ホームページの作成や研修等の主催事業などもすべてやっています。また、大きい自治体だと指定管理制度を導入することによって、職員を削減することも可能になるかも知れませんが、木更津市のように少ない職員で業務を担当している場合は、職員を減らすまでには至りません。

榛沢委員長 事業も含めた指定管理者制度が導入されると、使用料金が高くなるので、子ども会などは正直、厳しいです。君亀など、直営だった時と比べると利用者の費用負担が増えていきます。

事務局 選択肢として、現状のままの内容で期間を延長することは可能だと思います。もちろん対応が可能か城山会との協議が必要ですし、その内容に応じて指定管理料の引き上げは必要です。しかし、他市のように業務内容を広げることについては、現状では難しいかも知れません。

橋本委員 城山会は、社団法人ですね。

事務局 そうです。

榛沢委員長 他にご質問ありますか？ないようでした、説明に対する質疑はこのくらいにして、視点に対する協議に入りたいと思います。まず、(1) 青少年の自然体験活動の意義と役割について、お願いします。

事務局 皆さんから出された意見を資料として事前にお送りしましたが、その後に頂いたものと会議記録の内容を合わせたものが、今日お配りしたものです。メモ書きしてありますように、現代の子どもたちやお父さんお母さんの意識や、実際にどのように自然体験活動がされているのか、とりあえず、その現状を検討することから、意義と役割を導き出せるのではないのでしょうか？

橋本委員 前回もお話したように、自然体験活動が必要だということは皆さん一致していたかと思いますが、学校教育の中ではあまり時間がないということなので、学校教育以外のところでやっていく必要があるということだと思います。ここでもう一度意義について深めないともまずいですかね。

蘇我委員 皆さん認めていますよね。それをどう具体化するかが課題ですね。君津市に大規模な施設がありますが、指定管理制度が導入され、かつては公がやっていたものが、民間に流れている現状があります。君津に新しいホテルがオープンしたのですが、そういう目で見てみると、マザー牧場の来場者の多さにびっくりしています。あれだけ整備された施設であっても自然とふれあうことが大きな目的となっています。安全性や清潔さの確保等を考慮すると、流れが民間へととなっているように思います。夏休みはバンガローは満杯で、本当にびっくりしました。親としてはそうしたものに必要性を感じているんですね。しかし、ボースカウトやガールスカウトがやっているような活動に行くかということ、それはほんの一部にしかすぎないのではないかと思います。

榛沢委員長 ある程度のお金を払って、設備が整った施設に行って体験をするのか、もっと自然豊かな方法をとるかは考え方の違いですね。一般的に、今のお母さん方は、楽で設備が整

った方を求めているのかな。

石井委員 ある意味そういう風に育てられていないのですね。高度経済成長期には、都会志向みたいなものがあって、自然体験もレジャーのひとつで、どこかに連れていってもらおうというような体験でしかなかった。自分の子どもが中学生の時に、校長が「農業体験をさせてあげたい」という話がありましたが、結局、親の責任ですね。鎌足みたいな所でなんで農業体験をさせなくてはいけないのか、と思いましたが、あまり家庭で農業の手伝いもさせないし、親やおじいさんの姿を見せていなかったのですね。自分もそういう風に育てられていなかったので、自分の子どもに、マザー牧場に行くとか、そういうレジャー的な体験しかさせていなかった。本当の意味での自然体験というのはそういうものではないので、まず親の意識を変えていかなくてはならないと思う。

その意味で少年自然の家キャンプ場は、民間の施設と全然違うので、そこに行きたいと思うような意識づけも含めたPRが必要だと思います。また、キャンプ場の施設だけでは不利でも城跡という付加価値があるので、城跡見学をしながらデイキャンプをするというようなニーズはあると思うので、そうした掘り起こしをしていく必要があると思います。

鈴木委員 我が家には2人の娘がいるのですが、上の子が6年生ぐらいの時に、安くて子どもと一緒に体験できる場所はないかなあと考えた時に、キャンプが安くていいなと思いました。最初に富津公園のキャンプ場に行きました。子どもも非常に喜んでくれて、その後も、下の子が4年生ぐらいの時に、子どもを10人位連れてキャンプに3年間行きました。でも中学生になると行かなくなっちゃうのですね。自然体験をさせたいという思いもあって、そうした活動をしていたのですが、行ったとしても年に1回で、大きくなるとできなくなってしまうとなると、自然体験の必要性は感じて、準備が大変だと躊躇してしまいます。また、富津の場合、近くプールがあったりして遊ぶ場所もあり、市のキャンプ場は良いと思うのですが、やはり簡単で楽な方に流れてしまうような気がします。

橋本委員 自然体験について、レジャー的に年に何回かでかけて行って体験するようなものについて議論されていますが、本来大切なのは、日常的な自然体験活動なのではないでしょうか。周りに自然がいっぱいあっても、気持ちがそこに向かないというのが現状だと思うので、キャンプ場の議論と平行して日常的な子どもの生活の中でどう自然体験の目を育むかという視点も大切ではないかと思います。

今、キャンプ場をどうするかという話になっているので、その点に関して言うと、親の要求水準から考えたら、あのキャンプ場では正直なところ人が行かないと思います。運営形態も今はほとんど民間委託になっていますが、いろいろ知恵を出して人を呼び込むような企画をしているので、そういうことができる所が運営しなければうまくいかないのではないかと思います。

しかし、私はあのキャンプ場は必要だし、残したいと思います。そんなに利用頻度は高くなくとも必要だと思うのですが、それでは説得力はないですね。

榛澤委員長 子ども会の子供達にとっては、本当に身近な自然体験の場となっているので、なんとか残してもらいたいと思いますが、そもそも自然体験って何でしょうか。どこかに行って自然とふれあうというのもそうですが、例えば、災害の時にご飯を炊けるとか、そうしたものも入るのではないのでしょうか。デイキャンプなどで飯盒炊飯をすると、お父さんたちも日頃やっていないので、必要以上に薪を割ってどんどん火を焚いちゃったりしちゃうのですね。日常的にそうした体験をするというのも大切ですよ。

橋本委員 子ども会ならば、町の中で普通に火を焚いてもよいですよ、とか、もっと身近なところで自然体験ができればいいのですよ。そういう人たちがキャンプ場を利用して、ちょっと違った、スリルのある体験をしようよ、という風になるのだと思いますが、そのベースのところ弱いと思います。

榛澤委員長 私たちが子どもの頃は、田んぼを駆け回ったり、木にぶら下がったりしていましたが、今のお母さん方は、すぐに「そんなことをしたら危ない」とかいう話になってしまうので、難しいですね。

橋本委員 例えば、毛虫を見ても、みんなキャーと言って興味をもたないでしょ。「よく見てごらん、どんな毛虫なの？」とかいう、日常的な言葉がけが大切です。地域でそうしたことはまったくなくなってしまっているの、自然体験までもが教育産業になってしまっている。いろいろな進学塾では、すでに自然体験を組み込んでいて、そうした体験をした子の方が成績が上がると言われています。だから、もっと日常的な自然体験活動も必要だということも指摘しながら、キャンプ場につなげていった方が良いと思います。

石井委員 東京でも、新宿御苑などまったく周囲の喧騒が聞こえない公園みたいな場所があり、自然とのふれあいの場所が求められています。宿泊施設については、民間に追いつかないので、キャンプ場に行っていきなり泊まるというのではなく、まずデイキャンプ等で自然散策を体験してもらって、それからリピーターを増やしていったらどうかと思います。子どもだけでなく、お父さんやおじいちゃんなども、城跡散策をきっかけにキャンプにつなげるとか、そうした形でデイキャンプと自然散策を中心に4月から11月あたりまで開いていけば、あまり施設も使わないし良いのではないのでしょうか。

蘇我委員 私も皆さんと同意見で、キャンプ場は残して行かなくてはならないと思います。民間がやっているように、お金をかけてりっぱな施設を作る必要はない。それは民間に任せればよい。自然豊かな城山を残して、そこにキャンプ場があるというのが良い。後は、ソフトをどうするかだと思います。農業体験でも良いし、毛虫でも良いし、そこでどんな自然体験活動をするかは知恵を出し合っていけば良いと思います。そこに民間との違いを出していければ良いのではないのでしょうか。また、通年開催することによって、その季節にしかできないさまざまな体験が可能になると思います。

地曳副委員長 色々な意見がありますが、「1」の部分では、私は、レジャーと自然体験は違うのだというような点をもっと深めていって、具体的な中身については、次の視点で議論していった方が良いのではないかと思います。あまりキャンプ場にこだわらずに、自然体験そのものについてご意見をいただければと思います。

蘇我委員 レジャーは民間に任せれば良いと思います。

地曳副委員長 お父さんお母さんには、その辺の違いが区別されていないと思うのですが。

蘇我委員 ホテル側としては、それで人を集めているのですから。売っているカブト虫を集めてきて、「自然の中でカブト虫を捕まえる体験をしませんか」と銘打ってツアーを組んでいます。それは本来の自然体験活動とは言えないでしょうが、それでも需要があるということです。

橋本委員 それが主流ならば仕方ないでしょう。最初のきっかけとしては何でも良いと思います。興味を持ってもらってそこからどう広がっていくかが課題だと思います。もしかしたら家の周りにもカブト虫がいるかも知れないと思うように、子どもの気持ちをひっぱっていくことができるかどうかです。

石井委員 意義と役割について言うと、やはり、「生きる力」が弱まってきていて、潔癖すぎると思います。裸足になったり泥んこになったりという体験が少なくなっているなど、生活環境が変化してきています。

橋本委員 子どもの心で気になっていることは、子ども心が動かなくなっているところです。何か見たときに、あれ何だろう、触ってみようとか、行ってみようだとか、そういう気持ちが動かなんです。動く前に、あれやっちゃだめだとか、それは汚いだとか、親が何と思うのかというところでシャッターを下ろしちゃっているんですね。小さい時から大人側に教育されてきているから、教えられていないものは受け止められないから気持ちが動かなくなっています。不思議がるのが少ないですね。すぐ、ヤダーって言って手を出さないですね。そして、そうしたことが人間関係づくりが苦

手なことなどにも影響しているような気がします。

水が冷たいとか、今日は熱いとか、泥水は暖かいとか、五感を育てる上でも自然体験活動はとても大切さと思います。

石井委員 親だけでなく、世の中全体が、お金優先で、手ぶらで何も持たずにできるのが自然体験活動だということになっている。何から何まで準備して、キャンプをやったような気にさせる商売になってしまっている。それでは味気ないというのをもっとPRしなくてはいけないと思います。

榛澤委員長 親の意識は楽な方へ楽な方へとなくなってしまっていることで、子どもの意識も変化してしまっていますね。

橋本委員 逆に、本当の自然の危険がわからなくなっていますよね。実際に見ていないし、触っていないので、どの毛虫が触っていいのかどうか、植物だって、かぶれるものとか、食べたら死んでしまうものとか、そこいら中にありますよね。

榛澤委員長 そういう環境の中で育ってきたお母さんが子育てしているので、子どもたちもそうなくなってしまっても仕方がないですね。

地曳副委員長 親の親の世代、おじいちゃんおばあちゃんの世代は、自然体験をしていたのに、その体験を次世代に継承していないというのはどういうことなのでしょう。

石井委員 その世代は、そうした苦勞・体験をさせないようにしたいという子育てをしていった結果なのではないでしょうか。

橋本委員 「家の手伝いをしなくていいから勉強しなさい」と言われて育ったもの。

榛澤委員長 私は色々やらされたから、ちょっとのことではへこたれないけどなあ……。今は核家族になって、同居していない家が多いし、次の世代に伝わらなくても仕方がないのかもしれない。

石井委員 子どもでも大人でも、考えさせることをしない人が増えているのではないのでしょうか。これをどうしてやったらいいのか、ただ聞けばいい、とか。インターネットで簡単に調べることができるようになって「調べる」ということも変わってきました。歴史の教育にしても、ただ暗記だけで、なぜこのことが起こったのか、考えさせることをあまりやっていないように思います。自然体験活動では、火をおこすにはどうしたらよいか、とか、どうして自分が怪我をしてしまったのか、食べる道具をどうしたらよいか等、自然の中でそういうことを考えさせるためにも必要だと思います。

鈴木委員 生きる力を育てるために、自然体験活動が必要だと思います。資料を見せてもらって、勉強だけでなく、生きていく上で必要なことを自分で考えていく力など、さまざまな生きる力を育むために、自然体験活動が大切です。

伊藤委員 理科とか社会とかの学習ではなく、身近な自然やものごとを通じて考える教科として1～2年生に生活科が導入されました。自然とふれあったり観察したりすることが中心で、あえて評価もしない。道草を食い、生活の知恵を高める体験をする中で、生きる力を育もうというねらいがありました。

地曳副委員長 鎌足小や波岡小のように「教育の森」があればよいですが、キャンプ場に行ったりできるのは高学年になってからで、生活科を学んでいる1～2年生にはそうした機会がありませんよね。

伊藤委員 学校から外へ出ていくのは、さまざまな意味でやはり大変です。カリキュラムの範囲の中でそうした体験ができるようにしています。

地曳副委員長 保育園や幼稚園の園児から、自然体験活動をやっているかなくてはならないと思いますが、小学校の場合、生活科という教科があっても難しいのでしょうか。

蘇我委員 学校教育の中でそうした活動に踏み込んでいくには、当然予算や人が必要になってくるのだと思いますが、そもそも学校にそこまで求めるのか、どうしていくのかというは、やはり、ソフトをどうするかという課題だと思います。皆さんがおっしゃられたように子どもたちの「生きる力」や考える力を育むために自然体験活動が大切であり、

まだまだ木更津市には豊かな自然が残されているので、そうしたものを十分に生かしていってほしいと思います。

榛沢委員長 それでは、そのためには、次にどうしていったらよいか～推進方策～について、議論を深めたいと思いますが、いかがでしょうか。

伊藤委員 自然体験活動もやってください、薬物の問題もやってくださいと、さまざま課題が学校教育に持ち込まれてくるので、社会教育をお願いするしかないと思います。身近な自然体験活動をしながらキャンプ場の活用に結びつけていこうということだが、サタデースクール等で各公民館で様々な活動が開催されているので、その中で、自然体験活動を取り入れてもらえるといいと思う。そして、直接キャンプ場の利用者の増加につながらなくても、年に1回でも全ての公民館で日帰りのデイキャンプでもよいし、キャンプ場を使うようにしてもらえるとよいと思う。公民館を核にして広げてほしい。

蘇我委員 私も同意見です。さらに、公民館の事業に子ども会やPTAなどが協力して盛り上げていくのが必要だと思います。

榛沢委員長 子ども会でも自分たちの事業をやるだけでなく、公民館や地域の行事と連携してやっていきたいと考えています。

伊藤委員 もし公民館が募集をして集まらないというのであれば、青少年相談員や子ども会などの団体が後押ししてやっていけばよいのではないのでしょうか。例えば、体育課の少年野球大会が昨年からグランドゴルフ大会に変わったのだけれど、実行委員会方式で、実際には参加団体に関わる子どもたちが参加していました。学校で呼びかけをしましたが、それだけではやったこともなく、ルールも知らない4～5年生がなかなか参加できません。

石井委員 「キャンプ場があるのを知らない」という人がいた、との話がありましたが、キャンプ場の認知度が低いことや告知方法に問題があると思います。親子が参加したくなる魅力的な呼びかけを工夫する必要があると思います。「汚れてしまうのは嫌だ」という子どもたちにその先の成果を伝えていくためには、きちんと説得していく必要があり、そのためには、担当職員もそうした活動に理解がないとなかなか前に進まないのではないのでしょうか。

橋本委員 子どもが外で遊ぶことの大切さを教えるには、小学生になってからでは遅いです。子どもだけで外に出ていくことはないのですが、0歳1歳の子どもの親に伝えていかないといけないです。親とセットで話をしないと外に出なくなってしまうから、小学生になる前に、もっと小さい時に外遊びの楽しさを味わないと手遅れになってしまいます。

石井委員 中学生の非行の問題の時も、中学生になる前の小学生やもっと前の幼児の段階でそうした話をきちんとすることの大切さについて話し合われましたが、これも同じで、親の意識をどう変えていくかが課題だと思います。

橋本委員 確か8年前ぐらいに、児童遊園での外遊びの活動に対して厚生労働省が補助金を出してくれるという話があったので、いろいろ回りました。しかし、結果的に公園の近隣の人たちが子どもたちが集まるとうるさいということと、路上駐車が増えてあぶないということで実施することができませんでした。もっと小さい範囲で外遊びができるともっと変わってくると思うんですが・・・。

石井委員 小学校でもそうですね。運動会等の時にマイクで放送するのがうるさいということで、近隣から苦情が来る学校があるそうです。もっと子どもたちを地域で育てるという意識を、きちんと伝えないといけないと思います。

橋本委員 公園を汚しているのは、実は大人なんですね。子どもはむしろ被害者です。もっと子どもたちのために協力してほしいと思います。子どもを地域で育てるというような啓発は個人ではなかなかできないので、行政の役割だと思います。

蘇我委員 公民館のエリアよりもっと小さな単位として町内会があります。木更津市では町内会という拠点を持っているんですね。そして、この地域の拠点に活動しているのが、青少

年相談員であったり、子ども会であったり、PTAであったりするわけです。こうした近隣集団の中でみんなが見ていれば、先ほどの公園の問題なども解決するのではないのでしょうか。公民館のエリアは中学校区ですが、その基礎単位としてのコミュニティが本当に大切だと思うし、それを活性化していくために、青少年相談員や子ども会、PTAが連携していかなければならないと思います。榛澤会長から子ども会の現状を聞いていて、大変厳しいということはわかるのですが、もっと他の団体が協力できないのかなあと思います。コミュニティの機能が衰退してきた理由は何なのか、考えなければいけないと思います。ただ、こうした状況の中でも、木更津市には中学校区ごとに公民館が設置されているわけですから、公民館を拠点に地域のコンセンサスづくりが広がっていけばよいと考えます。

榛澤委員長 「地域の子どもは地域で育てる」と言っていますが、わかってくれない大人をどう説得していくかが課題です。みんなの意識を少しずつ変えていかないとダメだと思います。

地曳副委員長 町内会や公民館など、身近な地域から変えていくということももちろん大切ですが、行政的に何ができるかということも考えた方がよいと思います。学校教育課の方がいらっしやらないので、伊藤校長先生に質問する形になってしまいますが、今の学校のカリキュラムの中で自然体験活動を増やすことはできないですよ。

伊藤委員 この資料を見てもらうと分かると思いますが、小規模校では4～5年生で1泊2日の自然体験活動・宿泊学習が行われていますが、それ以外の学校は5年生だけです。

地曳副委員長 文部科学省からの指導等もあるのかも知れませんが、市町村単位で独自に自然体験活動を増やすということは可能ですか？

伊藤委員 市の教育委員会の判断である程度は可能だと思いますが、当然、予算が伴います。市の施策がきちんとあって、予算があればできるかも知れませんが・・・。

地曳副委員長 皆さんがおっしゃっているように身近な地域からやっていくというのも当然大切ですが、そうした形できちんと予算と時間と人材をつけて行政的にやっていくというのにも必要ではないかと思います。

伊藤委員 実際には、5年生で1泊2日の宿泊で自然体験活動を行って、6年生の修学旅行につなげていくというのが一般的です。それ以上、自然体験活動を増やすというのはやはり難しいと思います。それに、5年生では校外学習や福祉体験などもやらなくてはなりません。

地曳副委員長 そうした大規模なものでもなくとも、歩いて行ける学校の周辺に豊かな自然があるので、2～3時間ぐらいでもいいから、そうした時間を設けることは不可能なんではないでしょうか。もちろん先生だけでは大変なので・・・。

伊藤委員 時間的なものも含めて難しいので、学校教育と社会教育の住み分けの中で、社会教育をお願いするのではないじゃないでしょうか。

石井委員 地域に住民会議という組織があります。いつも情報交換で終わってしまっているの、環境浄化活動とかをしませんかと、提案したんですが、あまり動かないですね。また、今は問題がないからということなんですが、もし問題が起こってからでは遅い。少子化で過疎化になっており、これがさらに進行していくと、子育てする親の世代もいなくなって子どもを育てる地域の環境が失われてしまう可能性もあるのでないか、というような問題提起もしたのですが、最終的には地域の大人の意識の問題だと思います。

蘇我委員 地曳さんのおっしゃることもよく分かるんですが、学校教育でできる限界もあるんじゃないでしょうか？学校教育に役割分担をお願いするよりも、社会教育をもっと充実させていく中で学校教育とクロスさせていくしかないのではないかと思います。この地域の社会教育の拠点は公民館ですから、公民館のあり方や地域で公民館がどんなリーダーシップをとっていくかが問われているのであり、そのためにはそういう活動を推進することができる公民館職員の配置が不可欠です。前回の答申で、地域における公民館のあり方が出され、そこで専門職員の配置の問題が提起されましたが、最終的には今回の問

題もそこに帰結するのだと思います。

地曳副委員長 私は、学校教育ができないところを社会教育に求めてしまうと、かえって職員に付加がかかってしまのではないかという危惧があるので、もう少し学校教育で分担してもらえないかということです。

蘇我委員 公民館が自然体験活動を担うと言っても、全てを公民館職員がやると言っているわけではありませんが・・・。

橋本委員 私は、自然体験活動に興味をもっている人やさまざまな知識をもっている人が地域にたくさんいると思うんです。そういう人たちをうまく組織して、地曳さんたちのような団体がこの地域ではこんなことができるというアイデアをどんどん出してもらって、それを公民館に売り込めばいいんですよ。それを全市的にやっていけばいいんじゃないでしょうか。

地曳副委員長 賛成です。団塊の世代をもっと活用してやっていけばいいと思っているんですが、それらはあくまでも自発的な試みなんですね。それはそれでいいんですが、実際にやっていくためには、ものすごいエネルギーが必要だし、お金もいるし、時間も人も必要です。それらを担保するものが何か必要ではないかと考えるんですが・・・。

橋本委員 それだったら、まず公民館がそういう人たちを対象に講座をやるんですね。自然体験ボランティア講座のようなものを開催して、その受講生が講座で得たものを地域に返していく。その講座で学んだ人たちが、今度は地域の子どもたちを集めて学んだものを伝えていくことができると思います。そして、その地域を知ること大切ですし、地域の地図を作ることもできると思います。

地曳副委員長 その通りだと思いますが、そのためには費用や時間や人材が必要です。それらを担保するようなものが行政的にないと、なかなか前へ進まないのではないかと思います。

橋本委員 それならば、今回の答申でそうしたことをするための公民館の予算を増やすように、提言すれば良いのではないですか。

蘇我委員 人材も予算です。一人の職員がすべてやるのではなくて、地域の人たちをネットワークし、組織していけるような、そうした力量をもった公民館職員を確保することが必要だと考えますし、そうした公民館職員が地域に必要です。

石井委員 担当課は生涯学習となっていますが、学校教育課も一緒になってやっていた方がよいのではないかと考えますが・・・。今、学校支援ボランティアをやっていますが、自然体験活動を推進していくためにも、学校と地域を結ぶ役割をどこかが担う必要があるんじゃないでしょうか。

橋本委員 社会とか生物とかの高校の先生に講師として来てもらうということはできないのでしょうかね。授業の空き時間だったら、無償でもらえるんじゃないかと思うんですが。

地曳副委員長 退職した高校の先生も地域にいますね。

石井委員 木更津高校に開かれた学校づくり委員会というのがあって色んな話しをしているんですが、小学校とタイアップしたり事業をやっているんで、そうしたものも活用してもいいんじゃないですかね。地元高校も非常に危機感をもっているんで、地域で様々な活動が可能だと思います。

橋本委員 高校の部活動みたいところで、自然体験活動をやることは可能でしょうか？ところで、木更津の市民の学習意欲が低いのがちょっと気になります。積極的な参加をする人たちは、自分から何かを創造していくんですね。そうした活動が少し弱いような気がします。

蘇我委員 私は、木更津の人は照れ屋さんが多いだけのような気がします・・・。

地曳副委員長 木更津は商いの街だから、損得の心理が働くのかも・・・。

石井委員 例えば美術館などを無料にして市民の文化的な力量を上げることで、市のレベルを上げていくとか、そうした施策も必要だと思います。また、社会教育委員会議の答申がど

う生かされるが課題だと思います。とにかくその先に何か生み出すことが大切ではないか。

地曳副委員長 最終的には担当課の問題だと思います。答申が出たら、その実現に向けて他の課とも調整しながらやっていただけるんでしょうね。

石井課長 もちろんやっていきたいと思いますが、そうした内容を答申に盛り込んでいただければ良いと思います。今日出た意見としては、公民館と協力して自然体験活動を行うようなことは可能だと思います。

石井委員 その意味では学校教育も何らかの形で協力していただくことも可能だと思うのですが…。

石井課長 最終的には、自然体験活動の意義や役割が親や地域に理解されていないことがポイントだと思います。なぜ、それらが大切なのかというところを答申の中できちんと謳っていただけるとありがたいと思います。

橋本委員 そうだとするならば、こんなに子どもたちの「生きる力」が落ちてきているということを示さなければならぬですね。

石井課長 今回の答申の中で、社会教育委員として、自然体験活動をすることによって木更津の子どもたちにどんな力を育んでもらいたいかという思いを、示してもらえればいいんじゃないでしょうか。

地曳副委員長 まるで社会教育委員に丸投げしているような感じがするのですが、教育委員会としての考えはいいんでしょうか。

伊藤委員 これまでの議論でほぼ出尽くしている感があるし、国の答申とか色々な意見があるので、このメンバーだけでそうしたものを決めてしまって良いのでしょうか。客観的なデータは他のものがあるので、そうした資料使いながら答申していけばいいんじゃないでしょうか。

石井課長 もっとオリジナリティーを出していいんじゃないかと思うんですが…。

蘇我委員 オリジナリティーは、次の段階で良いのではないのでしょうか。自然体験活動によって「生きる力」や考える力を蓄えることが大切だということがほぼ共通の理解になっているので、そうしたものをまず整理することが必要ではないでしょうか。

榛沢委員長 色々な意見をお聞きしましたが、時間になってしまいましたので以上で、本日の協議事項は終了しますが、その他で何かありますでしょうか？

事務局 次回の日程はいかがでしょうか？

榛沢委員長 11月19日（火）に行いたいと思います。

事務局 今回は、今日話せなかったキャンプ場の今後の在り方について、できれば、学校教育課の方にお出でいただいて意見を聞きたいと思います。また、公民館における自然体験活動の具体的な事例の紹介や、今回のまとめをもとに整理したいと思います。

「その他」の事項として、千葉県社会教育振興大会の出欠の確認をお願いします。

榛沢委員長 長時間また夜遅くまで会議にご臨席いただき、貴重なご意見をいただきありがとうございました。答申作成に向けて一層のご支援・ご協力をお願いいたします。それでは、以上で第2回答申案検討小委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。